

■ 戦略研81st ミーティング議事録

「戦略経営研究会と現代政治戦略研究会」合同企画

日 時：2011年7月30日(土) 15:00-17:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「ビジネスパーソンによる若手地方議員サポート

～選挙ではなく、政策や事務所運営から地方政治にコミット～」

発表者：茂木正光氏（現代政治戦略研究会 会長代理）

ゲスト：井上航氏（埼玉県議会議員）

横尾俊成氏（港区議会議員）

参加者：参加者 21人（発表者除く）

（銀行員、会社経営者、医師、会社員、地方議員、議員秘書、大学生、  
NPO 法人理事長、公認会計士、社会保険労務士、行政書士、司法書士等）

共 催：現代政治戦略研究会

代表挨拶：代表より挨拶、戦略経営研究会及び講師、講演の趣旨の紹介

趣旨：

政治研では、昨年の10月より今春の統一地方選盛り上げ企画（計3回）を開催しました。この企画では、若手地方議員の方々にもお越しいただき、ビジネスパーソンが地方政治を身近のものとして理解するために、「地方議員の見える化」をテーマに、地方議員の活動実態などお話しをいただきました。

そのお話しから気付いたことは、選挙ではなく、若手地方議員の政策立案（条例制作、実行など）や、事務所運営（タスクの優先度選考、タイムマネジメントなど）に、ビジネスパーソンがその専門知識や経験でサポートできるニーズがあることでした。

現在、政治研では、上記のニーズに対して、サポートを行うための仕組みの構築を進めています。今回は、このニーズと、サポートの仕組みにつき発表を行い、サポートの仕組みにつきブラッシュアップをはかるとともに、広く、専門知識や経験のあるビジネスパーソンからのサポートを得たいと考えています。

このサポートにより、有為な若手地方議員のパフォーマンスを向上していただくとともに、ビジネスパーソンが地方政治にコミットできるプラットフォームを構築したいと考えてい

ます。

また、ゲストの井上氏、横尾氏から、地方議員としての近況と、ソーシャルメディアの活用などについても発表をいただきました。

後半は、ビジネスパーソンがプロボノ的に、若手地方議員の政策立案や事務所運営をサポートするワークショップ（課題発見）を行いました。

発表：

- ① 桐生市議、伏木康雄さんと、議員、議会のあり方  
桐生市議、伏木康雄さんの取組みを紹介しつつ、地方の議員、議会のあり方は一定ではなく、変化しつつあることにつき。
- ② 自営業者と板橋区議  
発表者（自営業者）と地方議員との関わりにつき。自営業者だと、地元の地方議員と出会う機会が多い。また、議会事務局にお邪魔して、地元の生活情報を収集する方法なども。
- ③ 戦略研と水窪町長選  
いまから10年前、戦略研メンバーの父親が水窪町長選に出馬の際に、選挙のサポートを行う。地方における町長選を経験できた。その後、戦略研は、水窪町にて地域活性化プロジェクトを行うことになる。
- ④ 政治研と今春の統一地方選盛り上げ企画  
地方政治への関心を高めるために統一地方選を盛り上げようと、昨夏に、白根大輔さん（当時川口市議）へのヒアリングを行う。そこで、若手地方議員の苦労やビジネスパーソンによるサポートのニーズがあることを知る。また、政治研にて統一地方選盛り上げ企画として計3回の勉強会を開催した。そこでさらに、選挙のときだけ盛り上げるだけでは、地方政治を活性化するためには不足であることに気付く。  
ビジネスパーソンが若手地方議員とコミュニケーションを取ること、また、ビジネスパーソンが地方政治にコミットすることが、地方政治の活性化（見える化）につながる。
- ⑤ 専門スキルと志を有する戦略研メンバーとのマッチング  
専門スキルを有するビジネスパーソンが地方政治に対して継続的に直接的に貢献すべきである旨。
- ⑥ 「地方議員サポートPJ概要」の要点  
政治研「若手地方議員サポートプロジェクト」資料の「設定ゴール」、「想定ニーズ」、「サービス一覧」を説明。

⑦協力依頼

まずは、後半のワークショップにて地方議員とのコミュニケーションを通して、実体験いただいて検討をいただきたい旨。

ゲストからのコメント：

井上航氏から茂木の発表へのコメント（2～3点）

議会と向き合うために意義あり

若手といってもイロイロ。たとえば、コネのあるなし。議員としてやれてるやれていない

市民に必要なものを出していく

条例、しんどい。提案はできるが、出しても通らない（過半数ないので）。モチベーションをどう維持するか

アウトソーシングの難しさ。議員本人が何をしたいか理解が必要。アウトソーシングに細かい指示が必要だと難しい

ポイント、意識統一が必要。議員の思いを掘り下げる。議員の代わりになるぐらいに

横尾俊成氏から茂木の発表へのコメント（2～3点）

選挙だけでなく、実績作りのサポートに意味がある

議会質問。いろいろな方から、メール、TW、FBをいただく。陳情窓口化には疑問カフェ（空間）を開設したい。議員にお願いするだけでなく、議員と一緒にやろうよ  
スタッフは、学生3人、社会人1人、そして、ボランティア

自分でできることは限られている

専門性のある人材が不足しているのが現実

アウトソースの難しさ。意識共有をどうするか？

質疑応答：

Q1 再選の肝は？

A1 横尾 再選しなければならない、いまのままではやりっ放し  
再選は4年間の実績を評価してもらうため

井上 大人の階段を急に昇った

実績、伝わりにくい

市長と連携して、和光市の課題を県政に届ける

人とのつながりから

Q2 アウトソースにつき。丸投げ？ 人がいない？

A2 井上 市議会では、何回も質問ができた。

県議会では、年1回しかできない。質問の質を向上させたい

横尾 専門性のあるなしに関わらず、若者を街作りに巻き込んでいく

Q3 アウトソースにつき。人（第三者）の目が入ると違う

無所属で、どのような議員活動になっていますか？

A3 井上 会派は入っている。条例提案のために議員総数の1/9？以上はいるので

横尾 自民系も民主系も、過半数に一票不足している。キャスティングボードは握っている

言葉が悪いが議会軽視で行くしかない。直接、区長へ提案。区、区長の実績になるものにつき（それは、議員の仕事なのかという反対意見あり）

行政といかに一緒にやるか、と、議会という行政へのチェック機能のバランスは考えている

参加者とのワークショップ：

- ① 井上さん、横尾さん以外に、2名の地方議員が本日参加していますので、4グループに分けます
- ② グループにて、司会と、書記（まとめ発表者）を決めます
- ③ PJ サービス提供一覧と、ヒアリングシートをもとにコミュニケーションをはかっている
- ④ まとめ発表

井上氏グループ

1) 議員の仕事における悩み／課題

一般質問をいかに行うか

優先順位をいかにつけるか

2) その悩み／課題の真因（WHY）は？

県議1年目。ガイドがない

タイムマネジメントができていない（行事、過重）

3) あなたなら議員の悩み／課題につき、どのようなサポートができますか？

一般質問の質向上のため、医療、法律、金融の専門家として第三者意見を提供

県の職員よりも上に行くために

タイムマネジメントの専門家の紹介

横尾氏グループ

1) 議員の仕事における悩み／課題

会計分野。委員会の予算書／決算書をチェックできない

巻き込む力はある、大学生は大丈夫だが、社会人は？ さらに専門性があるとなる？

2) その悩み／課題の真因（WHY）は？

行政資料のほうがおかしい可能性あり

3) あなたなら議員の悩み／課題につき、どのようなサポートができますか？

行政資料の改善を区長に提案してみる

アイデア実現、リソース活用

専門性のある社会人を巻き込むための、集まりのコンセプトが必要。集まりやすい

まとめ（発表者より）：

- ① 若手地方議員にとりビジネスパーソンによるヒアリングは「頭の整理」になります。
- ② 議員の政策レベルは、その方の知識・経験以上にはなりません。ビジネスパーソンがサポートする意味がここにもあります。
- ③ 若手地方議員PJにより、地方政治、地方議員の横断的な情報収集と蓄積を行うことができます。
- ④ 小難しい仕組み、見映えの良いシステムを構築するのではなく、若手地方議員からの個別案件ごとに、とにかくPJを実行に移していきます。まずは、定期的なコミュニケーションをとっていきます。
- ⑤ たとえば、若手地方議員のブレイン（専門領域につき情報提供、政策判断のお手伝い）や、若手地方議員へのタイムマネジメント伝授、事務所経営における管理部門の効率化・省力化など、専門スキルを有するビジネスパーソンが継続的に直接的に貢献していく仕組みを構築していきますので、ご協力をよろしく願います。

以上